

公立文化ホールにおける活性化に関する研究（その2）

—公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究—

建築計画—施設計画

正会員 ○ 高橋 里菜^{*1}正会員 勝又 英明^{*2}

公立文化ホール 活性化 長期使用
劇場法 バリアフリー 維持管理

1. 研究背景と目的

近年、公立文化ホールの現存する多くが、竣工後50年以上経過しており、更新や大規模改修の時期を迎えている。そのような中で、少子高齢化による利用者の減少、建築設備の老朽化、高齢化によるバリアフリーの必要性、建設・改修予算の削減など公立文化ホールの存立に関わる課題は少なくなく、各々のホールの将来性を踏まえ、最適な方針を検討していく必要性が高まっている。

本研究では、既に長期間使用されているホールの存続の指標について方向性を示すことを目的とする。具体的には、建築計画的要因、都市的要因、劇場法的要因視点から分析を行い、それぞれの実態把握を行うことで、活性化に有効な要因の傾向を示す。

2. 研究方法

2.1 研究対象

調査対象は、平成29年度に「平成28年度全国公立文化施設名簿」をもとに、全国の公立文化ホール2371施設に調査を行ったアンケート調査で回答を得た929施設の中から、活性化している、かつ、稼働率の高い17施設を選定し、2018年8月から2019年12月にかけて調査を行った(表1)。

表1 ヒアリング調査施設

施設名	竣工年	客席数	稼働率	活性化の要因	調査日程
施設A	1979年	約1500席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2019年8月17日
施設B	1984年	約660席	70.1~75%	都市的要因・劇場法的要因	2018年12月10日
施設C	1988年	約1450席	80.1~85%	劇場法的要因	2018年11月16日
施設D	1989年	約200席	95.1~100%	都市的要因・劇場法的要因	2018年8月9日
施設E	1990年	約800席	90.1~95%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2019年11月29日
施設F	1993年	約700席	60.1~65%	劇場法的要因	2019年1月9日
施設G	1993年	約800席	95.1~100%	劇場法的要因	2019年8月6日
施設H	1995年	約600席	95.1~100%	劇場法的要因	2018年11月28日
施設I	1996年	約720席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2018年10月24日
施設J	1996年	約1500席	80.1~85%	都市的要因・劇場法的要因	2018年11月28日
施設K	1996年	約800席	95.1~100%	劇場法的要因	2019年8月6日
施設L	1998年	約200席	95.1~100%	回答なし	2019年8月17日
施設M	2003年	約250席	90.1~95%	都市的要因	2019年8月7日
施設N	2004年	約300席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2019年8月19日
施設O	2008年	約1700席	75.1~80%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2018年12月21日
施設P	2010年	約730席	95.1~100%	都市的要因	2018年11月10日
施設Q	2012年	約1500席	85.1~90%	回答なし	2019年11月14日

2.2 研究方法

ヒアリング調査によって、実際に活性化している施設の「活性化の要因」について調査を行った。そこで、調査によって明らかになった「活性化の要因」、「今後さらに活性化するための要因」、「活性化を阻害する要因」、「一般論としての活性化の要因」をまとめ、さらに「建築計画的要因」、「都市的要因」、「劇場法的要因」ごとに調査をし、実際に活性化している施設における活性化の要因の実態を把握する(表2)。

表2 ヒアリング調査項目

調査項目	調査内容	
A 活性化について (表3)	活性化の要因	活性化を阻害する要因
	今後さらに活性化するには	一般論として活性化の要因
B 建築計画的要因 (表4)	施設規模 ※	市民活動の場所がある ※
	施設の方針に対しての施設規模	目的に依存しない一般利用者の居場所 ※
	裏方の規模	ロビーエントランスの広さ ※
	施設の使いやすさ	新築・改築をした施設のきれいさ
	メンテナンスのしやすさ	優れた建築デザイン ※
	各所室用途に応じた空間	外部から内部の活動が見える ※
	わかりやすい動線計画	駐車台数が多い ※
C 都市的要因 (表5)	バリアフリー化 ※	
	交通の便が良い	周辺の人口が多い
	周辺に公園がある	地域に若者が多い
	周辺に坂道が少ない	地域に高齢者が多い
	周辺の人通りが多い	人が入りやすいサイン誘導がある
D 劇場法的要因 (表6)	周辺に類似施設が少ない	
	自主事業を行っている ※	民間企業との連携
	利用者ニーズへの対応 ※	運営方針の明確化
	ニーズや評価に対する調査研究機能の強化	館長や職員が積極的
	教育機関との連携 ※	国・地方自治体が積極的 ※
	他の施設団体との連携	専門的な人材の育成 ※
	地域団体との連携 ※	利用料金が適切
	他の文化施設との連携 ※	多様な財源の確保
	芸術団体との連携 ※	実演公演の国内外への発信
芸術家・専門家との連携		

表4・6では※の項目のみ記載

3. 実際に活性化している施設の活性化について

3.1 実際に活性化している施設の活性化の要因

実際に活性化している施設の要因についての主な意見を以下にまとめた(表3)。

(1) 建築計画的要因

- ・施設規模が適切で、お客さんとの距離が近い。
- ・運営方針や地域特性を考慮した建築計画である。

(2) 都市的要因

- ・駅から近く、交通の便が良い(電車、車、バス等)。
- ・周辺の類似施設間で、うまく住み分けができています。

(3) 劇場法的要因

- ・自主事業を頻繁に行うなど、稼働率が高いことで施設を利用する機会が多い。
- ・地域団体や教育団体などと連携を行うことで事業の質が向上している。

3.2 今後さらに活性化するための要因

今後さらに活性化するための要因についての主な意見を以下にまとめた(表3)。

(1) 建築計画的要因

- ・定期的な設備・機能の更新、定期的な保守点検を行う。
- ・バリアフリー化やユニバーサルデザインへの対応。

(2) 都市的要因

- ・その施設だけでなく、街全体の活性化につながる事業や計画を展開する。
- ・駐車場を施設規模や公演に対して適切な大きさにする。
- ・若中年層の取り込み(利用者の多くが高齢者のため)。

(3) 劇場法的要因

- ・教育、地域、芸術団体との連携事業により、自主事業の質の向上を図り、利用者の幅を広げる。
- ・ニーズの変化への対応や、HPなどの広報活動を強化。

3.3 活性化を阻害する要因

活性化を阻害する要因についての主な意見を以下にまとめた(表3)。

(1) 建築計画的要因

- ・築年数が多く、老朽化によって利便性が悪い。
- ・バリアフリー化が行き届いておらず、利便性が悪い。

(2) 都市的要因

- ・地域特性に合わない立地、交通の便が悪い。

- ・地域の人口減少による利用者の減少。
- ・若者の利用者が少なく高齢者の利用者が多いため、将来性に不安がある。

(3) 劇場法的要因

- ・自主事業を行っていない。
- ・事業の質の向上に対して積極的に取り組んでいない。
- ・施設の自主的な活動に対して、金銭面が障害になる。

3.4 一般論としての活性化の要因

運営している施設だけでなく、一般論としての活性化の要因についての主な意見を以下の表にまとめた(表3)。

(1) 建築計画的要因

- ・事業や演目に合ったホールの規模や形態。
- ・運営方針や地域特性を考慮した、恒常的に滞在できる建築空間がある。

(2) 都市的要因

- ・若者、高齢者の利用が多い。
- ・地域特性に合った公共交通機関からのアクセスがしやすい立地。
- ・人口が多く、人口比率にあった施設規模。

(3) 劇場法的要因

- ・自主事業を積極的に行うことや、利用者ニーズに応えることで、館としての方向性が確立している。
- ・目的の有無に関わらず自然と人が集まる空間、雰囲気づくり。
- ・稼働率が高く、施設を利用される機会が多いことで、施設が認知される。
- ・教育、地域、芸術団体との連携事業により、自主事業の質の向上を図り、利用者の幅を広げる。

表3 ヒアリング調査結果(活性化について)

施設名	活性化の要因	今後さらに活性化するには	活性化を阻害する要因	一般論として活性化の要因
施設A	・自主事業も賞し事業もやっている。未来の子供達のために。育成(週1回、子供の読書指導)の補助、約200人の中学生のジャズ指導-コンサートもやっている。	・今できることを継続してやっていますが、今後具体的に何をやるかは難しい。ハード面(建築的)という前に、まずソフト面(劇場運営や運営、その他様々な)でうにかしなければ、という問題が立ち上がっている。	・設備はほとんど古くはまる。・行動を起こしたくても、お金がない。	・人が集まってくる(自然と、目的がなくても)施設であることが重要。・演劇以外の日はほぼ人が来ない現状。・ホールが利用されていない、他の施設も利用されない。
施設B	・駅が近く、稼働率が高い。・自主事業を行っている。・他機関との連携を行っている。・築30年だが、立地が良い。	・関心の無い人でも施設が存在が地域の誇りとなるように。・施設の活性化だけでなくその地域の活性化にどれだけ貢献できるか。	・改修などで一時閉鎖してしまうのはマイナス。・高齢者が多く、採集性がない。・地域人口減少問題、自主事業は必要、自主の質が高まれば賞も高まる。	・古い施設を残すための改修。・若者のエネルギーが必要。
施設C	・市の立てた「芸術文化振興プラン」に沿って運営している。・プランや劇場法、市の指針に沿った運営が大切。	・財政状況を勘案しながら定期的な保守点検と計画的な改修を実施し施設を快適に使用できるようにしていく。	・若年層が多い。	・若年層の利用者が多い。
施設D	・自主事業を親睦会の地域だけでなく市と連携した事業を行っている。・運営を市民の実行委員会と行っている。	・特になし。	・駅から近い。・稼働率の低い。	・駅が近い。・稼働率が高い。
施設E	・稼働率が高いことと市民層の利用が多いことは活性化の要因ではない。・B1のパフォーマンス広場には平日、土日にかかわらず、一定の利用者が活用している。	・共有スペース(ロビーやエントランス)を活用し、賑わい創出のための仕組みを作ることが、目的に添った空間づくりにつながる。	・設備は全部古くはまる。・仕掛けがあることで活性化するが、逆も当てはまる。	・空間はほとんど古くはまる。
施設F	・地域と連携して中・小学生を十分に活用したイベント活動を行っている。・地域のアーティストと連携してアウトリーチ事業に取り組み、公演等の活動を普及することで活動を認知して、劇場まで足を運んで貰いやすくしている。	・入り口が不明瞭であったり、デザインに高齢者が通じにくいので、誰もがわかるデザインにしたい。・多目的ホールや図書館など、複合施設であることを活かして複合施設を行うことを検討する。・若者のニーズや地域のニーズを探り、それに合った催し物を行う。	・建物と動線計画が分かりにくい。・人が付くホールまで坂道が続くなどの立地の問題。・利用者が増えすぎてしまう。・地域の過疎化、人口減少、過度な高齢化など。	・市民の交流の場であること。・市の持つホールとして、市の皆様が気軽に利用できる事業をする。
施設G	・自主事業を行っている。・人材育成事業を行っている。	・若者のニーズに合った自主事業を行う。・公共交通機関や駐車場の確保などアクセス環境の向上。	・自主事業を行っていない。・駅が近い。	・自主事業を行っている。・劇場法に基づいた活動を行っている。
施設H	・単体で420台の駐車、コインパーキングもあり駐車場の多い。・立地として平日に1000人以上の客数を確保している。小女子でもライブパフォーマンスなどを行える。・人口が30万人前後程度に多く、2施設以下が妥当ではないと感じる。	・用事のない人もふらふら立ち寄れるような施設づくり。	・老朽化や既存不備、トイレが和式など設備の不備。	・施設を支える市民スタッフの存在(運営面にも関わってくる)。
施設I	・7Hカフェは、近隣の若者と協力して運営している。小女子でもライブパフォーマンスなどを行える。・若年文化センターは若年層が多い。	・稼働率だけでなく稼働率、外国人などでも利用しやすいようにする。・古い館は多岐的で、バリアフリー化や動線計画が上手でないというので改善(実際にサインボードの活用をしている)。	・バリアフリー化や動線計画が良くない。	・サロンやオープンスペースなどの目的がなくて立ち寄れる場所。・自主事業の質を高めて、実演家との共同制作やWSにきちんと意味と目的、今後にどうつながるかを定める。
施設J	・自主事業が多い。・他機関との連携を積極的に行っている。同定管理施設との連携が強い。・実演家の人材育成事業に力を入れている。	・バリアフリー化、他言語化、改修。・いつも賑わい立ち寄りやすいエントランス・カフェの活用。・他機関との連携、人材育成事業の実施。若年層の利用者の引き込みが重要。	・バリアフリー化していない、駐車スペースがない。・施設のありかたによった立地がない。・人材育成事業を行わない。	・目的に応じたホール形態。・市民のニーズを把握している。・若者のニーズを把握している。
施設K	・稼働率が高いから多目的活用している(大ホールは年間63%、多目的ホール76%、他の貸室も稼働率が高い)。	・多目的ホールや図書館など、複合施設であることを活かして複合施設を行うことを検討する。・若者のニーズや地域のニーズを探り、それに合った催し物を行う。	・利用者が増えすぎてしまう。・地域の過疎化、人口減少、過度な高齢化など。	・若者がいればその場は華やかで、高齢者を対象にした事業もどんどんしていくべきである。・多目的ホールがある選択が増える(ホールのみだと人は集まらない)。
施設L	・劇場はホールは何か所かあるが、利用料金が安い。また、豊盛では無いが備品も無料で貸し出している。・長くも悪くもここに至りた豊盛で、職員とお客さんの距離が近い。	・劇場が利用は60-70歳が多くを占めているので、若中年層の取り込みの強化。・ターゲットを若中年層にした、HPやインターネット環境などの広報の強化。	・設備は全部古くはまる。・設備が充実しておらず、持ち込んでもらっている。・自動販売機がない、トイレの数が少ない、公衆電話がない。	・地域団体と密着したホールとなるべきである。・利用料金は安いのが、設備が充実しておらず、持ち込んでもらっている。・自動販売機がない、トイレの数が少ない、公衆電話がない。
施設M	・劇場のホールは何か所かあるが、利用料金が安い。また、豊盛では無いが備品も無料で貸し出している。・長くも悪くもここに至りた豊盛で、職員とお客さんの距離が近い。	・劇場の利用は60-70歳が多くを占めているので、若中年層の取り込みの強化。・ターゲットを若中年層にした、HPやインターネット環境などの広報の強化。	・設備は全部古くはまる。・設備が充実しておらず、持ち込んでもらっている。・自動販売機がない、トイレの数が少ない、公衆電話がない。	・自主事業を行うことで、館としての方向性が確立していることが大切。・駅が近いからといって、(田舎など)高齢者が利用するとは限らない。・若年層には未来がある。利用が多いことは大切。
施設N	・市は最初から芸術文化に積極的ではなかったが、商業施設の空きフロアに劇場ができた。商業ビルが中心となり高層団体を立ち上げ、国際劇場、演劇とダンスが響く高層ビルができた。これらすべての事業に自給自足している。	・集客数の向上(まず、お客さんがきて立ち立つもの)。・劇場があり、事業内容を知らせてもらうことが重要(全ての年代を対象としたもの)。	・設備は全部古くはまる。・反対のことが活性化につながる。・高齢者が多くはデメリットではない。	・平日の午前中にいかに人を集めるか。・目的の有無にかかわらず来れるような施設、雰囲気を作る。・子ども、子育ての大人、高齢者が共存できる寄り添った場所となること。
施設O	・市の利用者の「開き」という意識が大きく、文化的な主眼として黒色ホール込みのスペースが揃っていることから稼働率が高い。・施設サービスのサポート体制あり利用者のやりやすさが実現できている	・実演、舞台芸術についてもっと若者に知ってもらえる工夫や、今までの自主事業やアウトリーチなどの良いやり方を現代の若者のニーズに合ったやり方に変えていく必要がある。	・PFが終了した後に、理想的な環境で運営が行えなくなってしまうリスクが下がってしまってもいい。・設備を長く使ったスタッフのサポートが必要な専門スタッフの確保が重要。	・駅が近いというよりは、地方だと駐車場の確保が重要。・広報活動を行っているが、アーティストや、高校生のTwitterの呼びかけなどにより組織効果も得られている。
施設P	・駅が近い。・稼働率が高い。	・若年層になってしまふ事も多々あるので、劇場の拡張を行う。・築年数が古い建物であるので、使い勝手が悪い部分の改修。バリアフリー化・床面積の増加など。	・稼働率が低い、駅が近い。他機関との連携を行っていないことは、大きな阻害する要因である。・設備は全部古くはまる。・設備が充実しておらず、持ち込んでもらっている。・自動販売機がない、トイレの数が少ない、公衆電話がない。	・思いの場としての機能、奥層できる空間、雰囲気。・文化施設の人口対比的に見た過剰性。・地域性として、文化施設を行っているか。
施設Q	・駅が近い。・稼働率が高い。	・他機関との連携: 現在なんとなんで終わっている情報交換-街全体で細かく情報交換、より大規模なものに中心市街地情報交換会、市内公共ホール4館連携会議、MICE連絡会。	・設備は全部古くはまる。・設備が充実しておらず、持ち込んでもらっている。・自動販売機がない、トイレの数が少ない、公衆電話がない。	・空間はほとんど古くはまる。・利用者は、73%中高年層・若年層、人口流失が多く、市としても負いにくい。

4. 活性化の要因のまとめ

4.1 建築計画的要因

建築計画的要因についての主な意見を以下の表にまとめた(表4)。

- 施設の方針や地域特性を考慮した「適切な施設規模」であることが有効である。
- 「各諸室用途に応じた空間」が多いと維持管理は大変であるが、利用者の選択肢が増え、自主事業の幅も増えるため有効である。
- 築年数が多く、老朽化が進む施設に対して「バリアフリー化」は利便性の向上において有効である。
- 会議室などの小さな諸室から、無料で利用できる広場まで、誰が来てでも利用しやすい「市民活動の場所」は有効である。
- ホール利用時にもロビーが使えて滞在できる場やカフェ、図書館等、運営面を考慮した「目的に依存しない

一般利用者の居場所」は有効である。

- 「ロビーエントランスが広い」のではなく利用者の規模や使われ方を想定した適切な広さがあると有効である。
- 施設がきれいになると精神面でも使いやすくなり、利用者が増えて活性化するため「新築・改修して施設がきれいである」ことは設備・機能に加えて有効である。
- 「メンテナンスや定期的な保守点検」がしやすいことは、改修を短期で終わらせることに有効である。
- 「建築デザインが優れていること」は、地域のランドマーク的な存在としては有効だが、施設管理面では障害となってしまうこともある。
- 「外部から内部の活動が見える」については、活動自体が外部に見えることもそうだが、地域の人々に施設の活動を認知してもらうことも重要である。
- 施設規模や地域特性を考慮した「駐車場の広さ」が重要である。

表4 ヒアリング調査結果(建築計画的要因)

施設名	施設規模	バリアフリー化	市民活動の場	目的に依存しない	ロビーエントランス	建築デザイン	外部から内部の活動が見える	駐車台数
施設A	大ホール500席、小ホール300席、駐車300台は過剰だが必要と見られる。同じ管理をしやすいホールも必要と見られる。同じ管理をしやすいホールも必要と見られる。	前室までは狭くはくが、使いやすさに問題あり。和式トイレはなかったが、後に追加された。	会議室は多く利用されるわけではないが、展示に来る。展示室では、フリーマーケット、絵画の展示などが行われる。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーは、大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。	建てたばかりで、大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設B	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設C	広さ、地域の施設との距離、周辺の人口などホールを見れば施設規模が適切かどうか。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設D	管理が大変だが、距離が多い。市にはホールがたくさんあり、催し物に合わせて各施設のホールを使い分けたい。	30年前に建設されたので、バリアフリー化は難しい。距離が多いので、小さな施設が多くできるといい。	市民活動の場。ボランティア活動(施設内に催しもあり)も持っている。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設E	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設F	利用者の多さで、都市人口に見合った施設規模であれば活性化につながる。1500人規模なら2000人規模は上らない。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設G	350席ほどが適切。ターゲットはどこの年代か。ターゲットはどこの年代か。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設H	市民活動の場。ボランティア活動(施設内に催しもあり)も持っている。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設I	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設J	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設K	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設L	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設M	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設N	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設O	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設P	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。
施設Q	目的に合った大きさが大切。	その通りである。	市民が目的なく訪れる場合は重要。人権や学習面で難しさが取り入れられた。	目的に依存しない。目的に依存しない。目的に依存しない。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。ロビーエントランスが広い。	外部から内部の活動が見える。外部から内部の活動が見える。	駐車台数は500台である。大ホールと小ホールが繋がっており、利用しやすい空間に場所となる(座席が並ぶような空間にしたい)。

4.2 都市的要因

都市的要因についての主な意見を以下の表にまとめた(表5)。

- 利用施設の候補に挙がりやすく、かつ、日常的に通いやすい方が利用者の恒常的な滞在を促せるため、地域特性に合った「交通の便が良い」ことは有効である。
- 「周辺に公園がある」だけではなく、公園と連動した事業や使われ方を展開していくことが重要である。
- 地域特性により異なるが「施設周辺に坂道が少ない」ことは利用施設の候補に挙がりやすくなる要因の一つであるので、有効である。
- 「施設周辺の人通りが多い」だけではなく、その人たちをどのようにして施設に引き込むのが重要である。
- 「施設周辺に類似施設が少ない」ことは、施設間でホー

ルの席数をずらし、連携事業を行うことで住み分けができていけばあまり問題はない。

- 「周辺地域の人口が多い」だけでなく、それに対応した施設規模であり、人口の入れ替わりに対してどのようにアプローチしていくのが重要である。
- 「地域に若者が多い」と相対的に若者の利用者が増えるため有効であるが、実際に若者の利用率は地域によって異なり、ニーズをつかむことも難しい。
- 「地域に高齢者が多い」ことは、平日昼間の滞在が可能な人が多いことと共通するが、高齢者の利用者が多いと将来性に不安がある。アクティブシニアを受け入れる体制が重要である。
- 「人が入りやすいサイン誘導がある」ことは、駅から施設へのアクセスにおいて重要である。

